

## 2年1組 国語科学習指導案

1 単元名 だいじなところに気をつけて読もう

- 2 目標
- ・生き物の体の特徴やたがいにかかわり合う様子に興味・関心を持って、進んで読もうとする。【関・意・態】
  - ・事柄の順序に目を向けて読み取ることで、それぞれの生き物たちが、かかわり合っていることを読み取る。【読むこと・思】
  - ・生き物たちのかかわり合いの様子を調べ、絵図や文にまとめることができる。【書くこと・技】
  - ・主語と述語の関係に注意して、読んだり書いたりすることができる。【言語事項・技】

3 教材名 サンゴの海の生きものたち

## 4 指導にあたって

## (1) 教材観

本教材は、サンゴの海の生き物たちのかかわり合い（共生）の様子について書かれている説明文であり、新しい発見や疑問を持ち、内容を楽しみながら読み進めることができる。写真が効果的に使われており、かかわり合う様子をイメージしやすい。また、「初め、中1、中2、終わり」の比較的分かりやすい文章構成となっているので、文章のまとまりがとらえやすい。したがって、問いかげの文やまとめの段落などの大事なところを意識して、順序を考えて読むことを学ばせるのに適した教材である。

## (2) 児童観

「たんぼぼのちえ」では、たんぼぼの変化の様子やそのわけを挿絵や時間の順序を表す言葉、文末表現などに気をつけて読み取ってきた。子ども達はたんぼぼのちえのすごさに驚き、他のちえも調べてカードにまとめ、友達に紹介することができた。言葉に目を向けて考えようとする態度が少しずつ育ってきている。しかし、まとめごとの内容を考えながら順序よく読み取ることや主述の関係を正確に捉えることはまだ定着していない。

## (3) 指導観

初めの問いかげの文に着目して、どんな生き物たちのことがどんな順序で説明されているのかを考えながら読み取ることで、それぞれがどんなかかわり合いをしているかに気づかせたい。

第二次 主述の関係や接続語等に気をつけて生き物のかかわり合いを読み取ることで、思考力を育てる。

第三次 読みを活かし、自分の調べた生き物たちのかかわり合いの様子を絵図や文に表わすことで、表現力を育てる。

## 5 単元計画（総時数10時限）

時	学習課題・学習問題とまとめ	評価規準
第一 次 ③	<p>範読、新出漢字、初発の感想（分かったこと、思ったこと、ふしぎなこと）、段落打ち、 文番号打ち</p> <p>初発の感想発表・全文概観・読みのめあて ②</p> <p>①～②段落は、問いの段落で、③～④段落は、イソギンチャクとクマノミ、ホンソメワケベラと大きな魚のことがいろいろ書いてあり、ふしぎなこともあった 「どんな生き物たちが、どんなかかわり合いをしてくれているのか」 問いの答えを読み取る</p>	<p>関 進んで一人学習をしようとする（ノート、観察）</p> <p>読・知 大まかな文章構成をつかみ、読みのめあてが分かる（発言、観察）</p>
第二 次 ④	<p>&lt;③④段落のイとクはどんな生き物か&gt;</p> <p>①には、細長い触手がたくさんある 触手には毒の針がついている この針で小さな動物をつかまえて食べている</p> <p>②は、①の触手の間にいるきれいなオレンジ色の魚 体がねばねばしたえきでおおわれているので、①にさされない</p>	<p>読・思 「たいへんなこと」や逆接「でも」等に注目しながら、イとクの体の特徴を読み取る（発言、ノート）</p>

	<p>本時 &lt;イとクは、どんなかかわり合いをしているのか&gt;</p> <p>イとクはたがいにまもり合っていると分かった それは、イは毒針でクを食べにくる大きな魚からクをまもり、クは音を立てておいはらうことでイを食べにくる小さな魚からイをまもっているから</p>	<p>読・思 接続語、指示語や主述の関係に気をつけて、たがいにまもり合っていることを読み取る (発言、ノート)</p>
	<p>&lt;ホと大きな魚は、どんなかかわり合いをしているのか&gt;</p> <p>たがいに役に立つようにかかわり合っていると分かった それは、大きな魚は、ホに体や口の中をきれいに掃除してもらう。ホはそのお返しに、掃除してとった虫を食べ物としてもらうから</p>	<p>読・思 主述の関係や接続「でも」などに注意して、たがいに役に立つかかわり合いをしていることを読み取る (発言、ノート、観察)</p>
	<p>問いの答えとまとめ</p> <p>サンゴの海では、生き物たちがたがいに守り合ったり、役に立つようにかかわり合っていた。そして、問いの説明を⑩段落の「このように」でまとめている。その他にもどんな生き物たちが、どのようにかかわり合っているのか調べてみたい</p>	<p>読・知 全体の構成や⑩段落の接続語の働きが分かる (ノート、観察)</p>
第三次 ③	<p>調べよう 「サンゴの海の生き物たちのかかわり合い」</p> <p>「たがいに〇〇〇する●と●」絵図カード作り ②</p> <p>たがいにどのようにかかわり合いをくらししているかを 絵図や文に表わすことができた 友達のカードを読むのが楽しみだ</p>	<p>関 生き物たちのかかわり合いの様子を進んで調べようとする (観察)</p> <p>書・技 主述の関係に気をつけて双方のかかわりの様子を簡単な絵図や文にまとめることができる (カード)</p>

## 6 本時の学習 (第二次中の2時)

(1) **ねらい** 主述の関係や接続語「こうして」に注意して、生き物がたがいにまもり合っていることを読み取る。  
(発言、ノート、観察) 【読むこと・思】

### (2) 学習展開

学習活動	時	教師の働きかけ	予想される子どもの反応
1 前時を想起し本時の学習問題を確認する	5	<イソギンチャクとクマノミは、どんなかかわり合いをしているのか>	
2 自分の考えを持つ	7	・本文の分かるところに線引きし、考えをノートに書くように促す	・助け合っている まもり合っている
3 どんなかかわり合いを話し合う	25	<p>・「どこで分かるの」とか問う</p> <p>・「こうして…」とは「どのようにしてまもり合っているのか」と問い、⑤⑥の具体的な内容を読み取らせる</p> <p>・なぜ近づかないのかをはっきりさせる</p> <p>・切り絵等を利用し、「だれがどうする・何をどうする・どうなる」をしっかりと聞き合わせ、板書に位置づける</p> <p>・「こうして」のつなぎことばでかかわり合いがまとめられていることに気づかせる</p>	<p>・⑤⑥段落を音読し、線引きする</p> <p>・⑥にこうしてイとクは…まもり合っていると書いてあるから</p> <p>・⑤で分かる クを食べる大きな魚は、イをこわがって近づかない だからイの中でクはあんなぜん…でまもられていると分かる</p> <p>・イには毒の針があるから、クをまもれる</p> <p>・⑥のイを食べに来る小さな魚が近づいてくるとクがカチカチと音を立てておいはらう だからクはイをまもっていると分かる</p> <p>・たがいにまもり合っていると分かった</p> <p>・「こうして」はつなぎことばで、かかわり合いがまとめられていると分かった</p>
4 本時のふりかえりをする	5	イとクはたがいにまもり合っていた。さいごの「こうして」の文に、2ひきのかかわり合いがまとめて書いてあった。これからまとめのつなぎことばに気をつけて読もう	
5 次時の確認をする	3	<ホと大きな魚は、どんなかかわり合いをしているのか>	

(3) **本時の視点** 言葉に目を向け、文の主述等をはっきりさせた話し合いをしているか